

さがの水産資源回復促進事業（アカウニ生産）

大庭 元気

アカウニ生産は、産卵期および生産の都合上、前年度に生産した種苗の配布と、翌年度配布種苗の生産を行う。よって令和5年度は、令和4年度に生産した種苗の配布と、令和6年度に配布予定の15mmサイズ50万個のアカウニの種苗生産を行ったので、その概要について報告する。

方 法

種苗配布

令和4年度に生産したアカウニ種苗に適宜、養殖ワカメ等を給餌し成長させ、殻径15mm以上になり次第、配布を行った。

種苗生産

親の飼育方法、採卵、浮遊幼生飼育から稚ウニ飼育等の種苗生産の基本的な方法は既報¹⁾ 及び当センターの種苗生産マニュアル^{2, 3)} に準じた。

結果及び考察

種苗配布

5月11日～5月31日にかけて、合計50万個のアカウニ種苗を配布した。

種苗生産

1 採卵・浮遊幼生飼育

採卵は9月14日～10月23日にかけて行った。親ウニは、当センターと佐賀県玄海栽培漁業協会で飼育していた個体を使用した。採卵した個体の平均殻径は63.2mmであった。総採卵数は6,284万粒であった。

浮遊幼生飼育は、栽培協会から譲渡された幼生も含め計5,302万個の幼生を用いた。飼育期間は19～22日間であった（表1）。

表1 採卵・浮遊幼生飼育結果

回次	採卵日	平均殻径 (mm)	平均重量 (g)	親数	採卵数 (万粒)	収容幼生数 (万粒)
1	9月14日	64.5	97	21	1,123	701
2	9月26日					739
3	9月27日	61	82	16	375	156
4	10月5日					1,133
5	10月10日	64.9	96	20	810	531
6	10月23日	60.6	84	4	3,976	2,042

2 採苗および稚ウニ飼育

採苗は、10月4日～11月20日に変態直前の浮遊幼生計597万個体を7m³FRP水槽または15m³コンクリート水槽合計10水槽に収容して行った。3～7日後の計数の結果、付着稚ウニ数は136.8万個体であった。

採苗後、30日頃から培養した不稔性アオサをミキサーで細かく刻んで投与し、流れ藻が海岸に漂着したときは採取して給餌した。

十分なサイズに達した種苗は、随時取り上げて篩いを用いて選別した。篩い上がりはコレクターを入れたトリカルネット製のカゴを設置した水槽に、篩い落ちは防虫ネット製の生簀を張り付着珪藻板を入れた水槽に収容し、継続飼育した。なお、今年度は2月21日より養殖ワカメも合わせて給餌した。

また、86.7万個体のアカウニを翌年度配布用種苗として継続飼育した。

文 献

- 1) 藤崎博・山浦啓治2003：種苗量産技術開発事業. (2)アカウニの種苗生産. 平成13年度佐玄水業報, 73-75.
- 2) 佐賀県栽培漁業センター 1996：佐賀県栽培漁業センター種苗生産マニュアル. 45-68.
- 3) 野口浩介 2015：アカウニ種苗生産の現状と課題. 平成27年度佐玄水産セ研報 7, 107-120